

「カラスウリの花の味」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

大学の正門の脇・・・正確には春日通りの歩道に、毎年カラスウリの花が咲く。・・・カラスウリの花は完全に開花すると、レースのような花弁を開き、実に美しい。しかし、完全に開くのは夜中なので、私が職場に着くころには、もうしぼんでしまってる。



「大学正門脇にあるカラスウリの花」 夜間は目立つのだが、朝はしぼんでしまって、気付きにくい。



もちろん植え込み全体がカラスウリ・・・というわけではない。この植え込みの低木のすき間に伸びて、巻ひげを使ってからみついているのだ。せっかくなら昼も咲いていれば美しいのに、なぜ夜間にだけ咲くのだろう？答えは、昆虫との関係である。

カラスウリが花粉を運んでもらう昆虫は蛾である。それもスズメガのような、口吻の長い種類である。

夜間の幻想的な真っ白な花を咲かせるのは、蛾を誘うためだったのだ。



「カラスウリの花の中心部」

カラスウリは雌雄異株である。この花は雄花だろう。上から見ると平板な花に見えるが、蜜はずっと奥にある。文字通り「奥が深い」。



私は、カラスウリの花を二つに割ってみた。確かに細長く、蜜腺に相当する部位は奥深い。蛾の仲間でも、相当に吻が長い種類でなければ、届かないだろう。私は試しに蜜腺(←の部分)をなめてみた。甘い！これは面白い教材になりそうだ。